

第4章

将来目標の設定

第4章 将来目標の設定

4-1 都市の将来像の設定

本町は、JR外房線と東金線が分岐する交通の要衝に位置し、東京まで特急で約40分の距離にあり、首都圏のベッドタウンとして人口が増加している都市です。

これは、人びとのライフスタイルが多様化する中で、丘陵地、田園、海岸といった豊かな自然環境を求める世帯が、本町を選択しているものと思われます。

本町は、近年の少子高齢化、環境問題といった社会状況を踏まえると、現在の豊かな自然環境を維持・保全していく一方で、都心への交通利便性を活かした魅力ある都市機能を備えた、都市と自然が共生するまちづくりを行うことが必要であると考えます。

さらに、地方分権や市町村合併といった地域構造の変化と新しいコミュニティ^{*}の構築に対応したまちづくりが望まれます。そのため、概ね20年後の都市の将来像を以下のように設定します。

◆都市の将来像

“自然と街が人びとを誘う都市”

○自然と共生するまちづくり

大網白里町は、人びとの身近な生活空間に密着して、森林、田園、海といった自然環境が人びとによって育まれ、人びとの活動の中で利便性豊かな環境と心静まる環境の両方を一体的な空間として享受し、生き生きとした暮らしのできる「自然と共生するまちづくり」を目指します。

○一体性のあるまちづくり

大網白里町は、各地域の歴史・文化を尊重しながら個性的な地域づくりを図るとともに、地域相互で、連携・サポートしあいながら、情報、活動そして人びとの交流が心地よくできる「一体性のあるまちづくり」を目指します。さらに、ユニバーサルデザイン^{*}の考え方にに基づき、誰もが何の障害もなく社会活動が行えるまちづくりを目指す意味でも「一体性のあるまちづくり」を実現します。

○世代を越えたふるさとのまちづくり

大網白里町は、従来のベッドタウンの問題点を解消し、多様な世代の住民がお互い地域活動に積極的に参加するなど、ふるさと意識を醸成し、生活や活動のベースとなるライフタウンとなることで、次世代の人びとも住み続ける「世代を越えたふるさとのまちづくり」を目指します。

○地域文化を創造するまちづくり

大網白里町は、農業、水産加工業、観光業など、従来からある基幹的産業を活かした新しい産業の創造を展開していくとともに、産業が地域住民の生活に根付いたまちづくりを目指します。

高齢化、情報化、交通体系の変化など、今後の社会情勢の変化に対して、町のアイデンティティ*（個性、独自性）を失わずに柔軟に対応できる「地域文化を創造するまちづくり」を目指します。



大網市街地



季美の森

■ 都市の将来像の設定

社会・経済において今後予想される変化

- 少子・高齢社会の到来
- グローバル社会の進展
- 環境との共生
- 価値観及びライフスタイルの多様化
- 男女共同参画社会の進展
- 民間の参加と連携
- 科学・技術の発展
- 情報化の進展

まちづくり上の主要課題

①自然との共生

- 失われつつある緑地資源の保全が求められています。
- 田園景観を形成する農業的土地利用の保全が求められています。
- 海浜地域を主体としたリゾート機能の強化が求められています。

②身近な住環境の改善又は保全

- 既成市街地及び市街化調整区域内の宅地化された区域における、生活基盤整備が課題となります。

③分散する地域間の連携強化

- 分散する市街地の連携を強化する交通網等の整備とともに、地域の特性を活かした役割分担、機能連携が課題となります。

④多様な交通手段の確保

- 高速交通体系を活かした交通網づくりが求められています。
- 環境問題、高齢化社会に対応する公共交通の確保が課題となります。
- 中心市街地の駐車場対策が課題となります。
- 主要幹線道路の交通混雑の解消が求められています。

⑤まとまりのある健全な市街地の形成

- 分散した市街地のそれぞれの個性を活かしながら、利便性、快適性、安全性を備えたまとまりのあるまちづくりが求められています。
- 大都市圏のベッドタウンから脱却し、職・住・遊の機能がバランス良く配置されたまちづくりが求められています。
- 本町の中心地であるJR大網駅周辺地区では、「まちの顔」としての整備が求められています。

上位計画における町の位置づけ

千葉県長期ビジョン-みんなでひらく2025年のちば(H11.3)

【千葉東部ゾーンの将来像】

- 新産業創造・国際産業ネットワークの中核となる首都圏東側の新たな産業軸の中核である地区
- 都市住民との幅広い交流のもとで、多様化する消費者ニーズに対応する先進的農水産業が展開される地域
- 職・住・遊・学のバランスのとれたゆとりと活気が響き合う自立的な都市圏地域
- 九十九里浜等の豊かな自然環境やその恵まれた文化などの多様な地域資源と、広域交通ネットワークを活用し、スポーツや健康を志向するアクティブで健康なりゾートの形成と多面的な交流・連携の下で、親しみやすく活気に満ちた地域文化が発信される地域

大網白里町第4次総合計画(H13.3)

【基本理念】

『みんなでつくろう生き活きとした“良い街”“良い故郷”』

【土地利用の方針】

- 職・住・遊など、複合的な機能を受け止めるための土地利用の推進
- 本町の中核となる都市的機能の形成
- 農業的土地利用の保全
- 豊かな自然の保全と緑の創出
- 交流地域の形成

都市の将来像

“自然と街が人びとを誘う都市”

○自然と共生するまちづくり

大網白里町は、人びとの身近な生活空間に密着して、森林、田園、海といった自然環境が人びとによって生まれ、人びとの活動の中で利便性豊かな環境と心静まる環境の両方を一体的な空間として享受し、生き活きとした暮らしのできる「自然と共生するまちづくり」を目指します。

○一体性のあるまちづくり

大網白里町は、各地域の歴史・文化を尊重しながら個性的な地域づくりを図るとともに、地域相互で、連携・サポートしあいながら、情報、活動そして人びとの交流が心地よくできる「一体性のあるまちづくり」を目指します。さらに、ユニバーサルデザインの考え方に基づき、誰もが何の障害もなく社会活動が行えるまちづくりを目指す意味でも「一体性のあるまちづくり」を実現します。

○世代を越えたふるさととのまちづくり

大網白里町は、従来のベッドタウンの問題点を解消し、多様な世代の住民がお互い地域活動に積極的に参加するなど、ふるさと意識を醸成し、生活や活動のベースとなるライフタウンとなることで、次世代の人びとも住み続ける「世代を越えたふるさととのまちづくり」を目指します。

○地域文化を創造するまちづくり

大網白里町は、農業、水産加工業、観光業など、従来からある基幹的産業を活かした新しい産業の創造を展開していくとともに、産業が地域住民の生活に根付いたまちづくりを目指します。

高齢化、情報化、交通体系の変化など、今後の社会情勢の変化に対して、町のアイデンティティ（個性、独自性）を失わずに柔軟に対応できる「地域文化を創造するまちづくり」を目指します。

4-2 将来都市構造

(1) 市街地の基本構成

市街化区域^{*}に基づき 6 つの市街地の特徴を活かしながら、一体的なまちづくりを進めます。

大網地区	J R大網駅を中心とした、「中心商業・業務核」を配置し、その周辺には「住居系ゾーン」を配置します。
瑞穂地区	周辺の自然環境に配慮した「住居系ゾーン」を配置するとともに、J R永田駅周辺では、近隣住民の生活利便性を向上する「地域商業核」を配置します。
増穂地区	田園環境と調和した「住居系ゾーン」を配置するとともに、主要地方道山田台大網白里線の沿道には、近隣住民の生活利便性を向上する「地域商業核」を配置します。
白里地区	主要地方道飯岡一宮線沿道に「交流レクリエーションゾーン」を配置し、その背後に「住居系ゾーン」を配置します。また、東金九十九里有料道路インターに近接する地区に新たな「交流拠点」を配置します。
季美の森地区	丘陵地の自然環境を活かし、レクリエーション機能を重視した「住居系ゾーン」を配置します。
みどりが丘地区	自然環境と融合した「住居系ゾーン」を配置します。

(2) 市街地外における土地利用の基本構成

緑地保全ゾーン、田園環境保全ゾーン、田園環境共生ゾーン、海浜レクリエーションゾーンを設定することにより、それぞれの地域特性を活かした望ましい土地利用のあり方を明らかにします。

丘陵地域	丘陵地の優れた里山景観を保全する「緑地保全ゾーン」を配置します。
西部地域	市街地近郊において樹林地等の自然環境を保全する「緑地保全ゾーン」を配置します。
中部地域	農地や平地林の保全を図る「田園環境保全ゾーン」と、既存市街地周辺地区において、田園環境を活かした居住環境の創出を図る「田園環境共生ゾーン」を配置します。
海浜地域	農地や平地林の保全を図る「田園環境保全ゾーン」と、白里海岸の自然環境を保全・活用する「海浜レクリエーションゾーン」を配置します。

(3) 都市軸の形成

商業業務施設など、一定の都市機能が連続して集積するゾーンを都市軸として位置づけます。

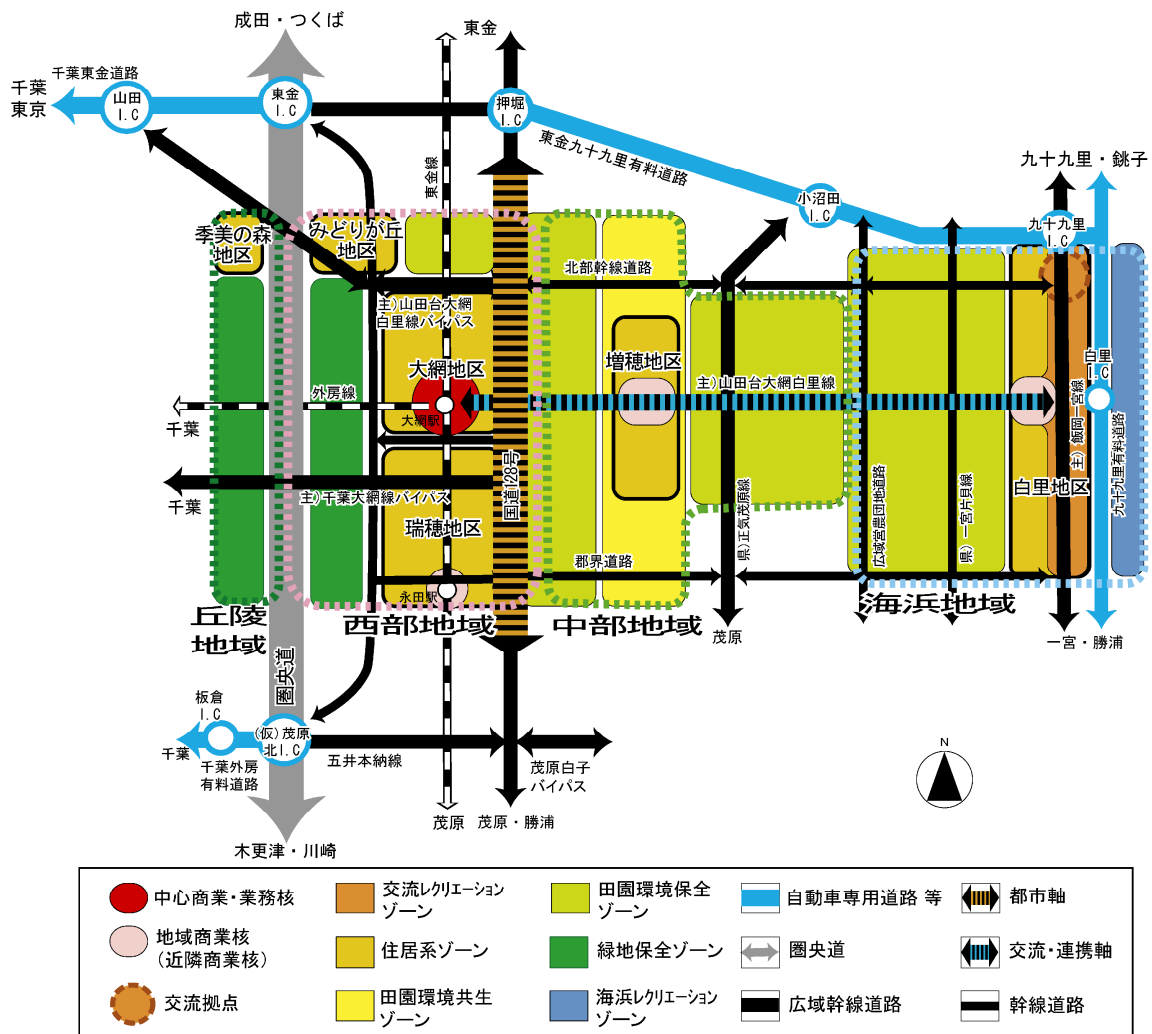
都市軸	国道 128 号は町内および近隣市町を結ぶ骨格となる道路であるため、広域的な交流と連携を促進する「都市軸」として位置づけ、沿道に商業・業務機能を配置します。
-----	--

(4) 交通体系の基本構成

一体性のあるまちづくりを目指し、東西道路と南北の道路によるラダー状*（はしご状）の骨格形成と広域アクセス機能の強化により、町内外の交通利便性を高めます。

自動車専用道路等	首都圏地域の骨格交通軸となる自動車専用道路等、走行性の高い道路として、圏央道、千葉東金道路、東金九十九里有料道路、九十九里有料道路を位置づけます。
広域幹線道路	近隣都市間を結ぶ広域道路及び自動車専用道路の各インターチェンジへのアクセス道路*を位置づけます。
幹線道路	一体的なまちづくりの実現へ向けて、大網、増穂、白里を結ぶ主要地方道山田台大網白里線を「交流・連携軸」と位置づけ、自動車の走行性のみでなく、市街地内における歩行者、自転車の安全性、快適性の確保及び沿道の景観形成等にも配慮した本町の象徴となる道路の整備を図ります。 また、「交流・連携軸」を補完し、各地域の連携を促進する道路として、郡界道路や北部幹線道路等を位置づけ、ラダー状（はしご状）の道路網を形成します。

◆ 将来都市構造図



4-3 将来フレーム

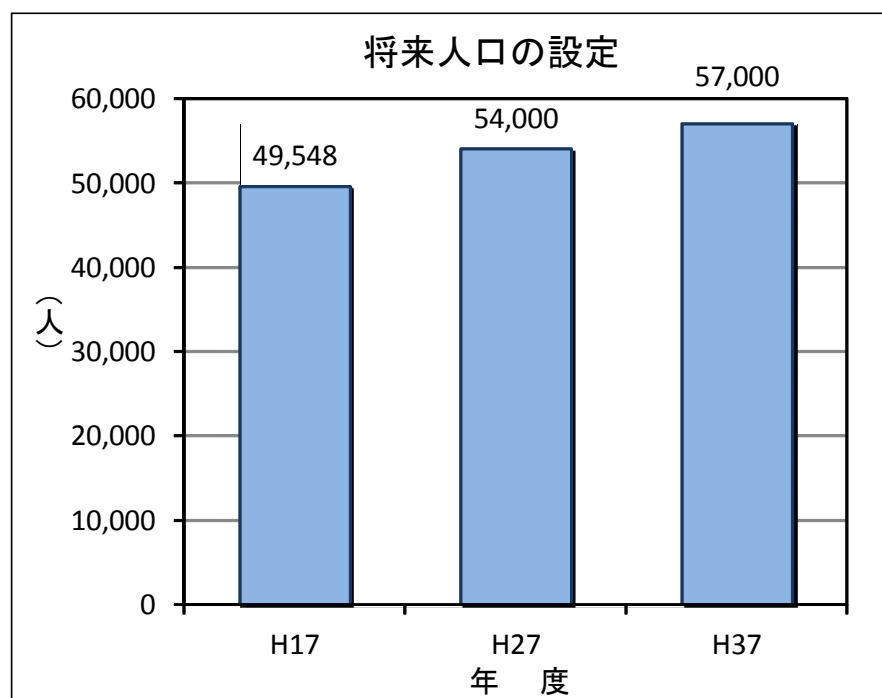
(1) 将来人口

本町の将来人口は、平成 37 年（2025 年）で、57,000 人とします。（平成 17 年国勢調査人口は、49,548 人です。）

これは、上位計画となる第4次総合計画、大網白里都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針で目標としている人口と整合するものです。

本町の人口は、首都圏のベッドタウンとしてこれまで順調に増加してきました。しかしながら、今後の高齢社会や全国的な人口停滞、減少傾向を迎えるなかで、これまでどおりの人口増は難しい状況にあります。

この将来人口は、今後、本町の財産である自然環境を活かし、潤いある居住環境を維持していくとともに、より利便性の高い市街地の形成を図っていくことで、町全体の定住化促進と、既に基盤整備が完了している 5 団地*の市街化促進を積極的に行っていくことを目標とし、設定したものです。



(2) 将来フレーム

設定した将来人口を基に、本町の生産規模、就業構造、土地利用フレームを以下に示すとおりに設定します。

◆ 将来フレーム※結果

		現況値	推計値			
		平成 17 年(2005 年)	平成 27 年(2015 年)		平成 37 年(2025 年)	
人口フレーム		49,548 人	54,000 人		57,000 人	
生産規模	工業出荷額	約 102 億円	約 135 億円		約 153 億円	
	卸売小売販売額	約 421 億円	約 540 億円		約 610 億円	
就業構造	第1次産業	約 1.4 千人(6.2%)	約 1.3 千人(5.2%)		約 1.1 千人(4.1%)	
	第2次産業	約 5.2 千人(22.5%)	約 5.1 千人(20.2%)		約 4.7 千人(17.6%)	
	第3次産業	約 16.5 千人(71.3%)	約 18.9 千人(74.7%)		約 20.9 千人(78.3%)	
	合計	約 23.1 千人(100.0%)	約 25.3 千人(100.0%)		約 26.7 千人(100.0%)	
土地利用フレーム	商業・業務用地	20ha	41ha	+21ha	47ha	+27ha
	工業用地	40ha	27ha	-13ha	24ha	-16ha
	住宅用地	572ha	572ha	0ha	622ha	+50ha
	合計	632ha	640ha	+8ha	693ha	+61ha

※人口フレームの現況値は、平成 17 年国勢調査の値

※就業構造の現況値は、平成 17 年国勢調査の値

※工業出荷額の現況値は、平成 17 年の工業統計の値

※卸売小売販売額の現況値は、平成 16 年の商業統計の値（平成 17 年価格）

※将来工業出荷額と卸売小売販売額はH17 年価格

